

「人と社会に貢献すること」をテーマに高品質製品を社会に提供

浪華ゴム工業株式会社 奈良県大和高田市

浪華ゴム工業株式会社の起源は、明治39年以前の缶詰用ゴムパッキン製造にあり、その後日本で最初にゴム製水枕の製造に着手。昭和51年以降は医療用ゴム製品、プラスチック製医療機器の研究開発と生産拡大に努めている。特に、高分子素材の研究や構造開発に取り組む一方で、先進的な生産技術の導入と製品の安全性を確保する高度な品質管理を実践することを最優先課題として取り組み、常に顧客本位の企業活動を続けている。

創業時から製造しているゴム製水枕は、頭部を無理なく優しく冷やすことができ、安眠、快眠に最適である。その品質の高さには定評があり、「世界のロングセラー」として、マスコミに取り上げられることも多く、時代を超えた家庭の常備品となっている。

また、ISO9001をいち早く認証取得し、顧客の要求する品質を完全に満たすことにより、「人と社会に貢献すること」をテーマに、より品質の高い製品の開発と提供を目指している。

会社概要



会社名：浪華ゴム工業株式会社
所在地：奈良県大和高田市曾大根
2-6-1

電話：0745-52-5681（代）
FAX：0745-23-1998
設立：昭和23年（創業明治39年）
代表者：代表取締役社長 大島 勲
資本金：4,500万円
従業員：166名
事業：医療用ゴム・プラスチック
製品製造及び販売

URL：<http://www.naniwa-rubber.co.jp/>



社員の熱意と努力により成長・発展

同社は、1906年（明治39年）に大阪市浪速区で個人企業としてゴム製品の製造を開始。

大正8年に合資会社に改組し、医療用ゴム製品の総合工場としての地歩を固める一方、印判用ゴム製品の製造も開始。昭和20年3月、本社工場（大阪市浪速区桜川）が戦災により焼失し、一部疎開中の大和高田市の現工場へ包括移転を行い、終戦の同年末に操業を再開。昭和23年5月、現社名に改組・改称している。

昭和25年10月より塩化ビニール製品の生産、昭和26年から医療用ゴム栓の生産、昭和28年には各種合成ゴム加工技術の研究・開発を推進し家庭電器用ゴム部品の生産を開始するに至り、三洋電機から洗濯機用しぼりロールの一括受注、その後も松下電器から音響用ゴム部品の受注等、社員全員が一丸となって事業拡大に取り組んだ。

また、同時に品質管理の強化にも徹底して注力し、昭和30年6月にゴム製水枕、昭和47年1月にはゴム製乳首がそれぞれJIS認定工場の指定を受けている。

このように、社員一人ひとりの弛まぬ努力、研究開発による「顧客ニーズを満たした良い製品の提供」は、同社創業以来脈々と引き継がれている経営理念である。歴史のある企業にありがちな硬直的なところはなく、新しいものに取り組んでいこうとする積極的な姿勢が窺える。

昭和51年以降は、特に医療用ゴム栓、哺乳用ゴム製乳首、プラスチック製医療機器の研究開発と生産拡大につとめ、併せて製品のクリーン洗浄システムを実現し、医薬品工場のGMP（品質強化）基準に対応した生産、品質管理を実施する工場改革に取り組んでいる。

同社の生産技術を結集した独自設計の機械設備

生産機械のほとんどは、同社の生産技術を結集した独自設計のもので、いずれも高い生産性と共に清掃、管理が容易で人的錯誤を予防した機械化を図っている。ゴム栓自動洗浄機は、薬液循環による攪拌方式で多量のゴム栓が均等に処理され、処理条件をプログラムされたシーケンサーにより薬液濃度、温度、時間がコントロールされる。



ゴム栓自動洗浄機

徹底した品質管理により提供される主要製品



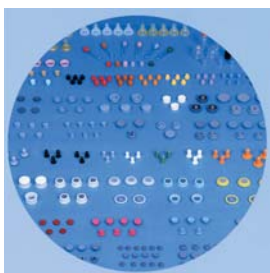
製造作業は、GMP基準に沿った各種の社内基準書により進められ、作業記録、機械、環境記録により作業工程が確認される。

同社ゴム栓とプラスチック製医療機器はISO 9001、/ ISO 13485 に審査登録されており、また、ゴム栓の一部はFDA（米国食品医薬品局）のDMF登録されている。

大島社長は、「医療関連のゴムおよび塩化ビニール製品の両方を取り扱っているのは当社だけであり、それが大きな強みになっています」と語っている。

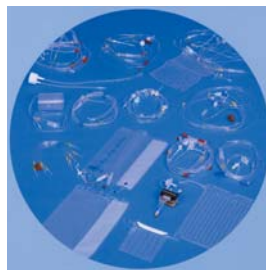
○各種医薬用ゴム栓、食品用ゴム

各種医薬品の包装材料として、医薬品に最適なゴム・プラスチック材料を選択すると共に徹底した品質管理により高品質の製品を安定生産し、大手製薬メーカーに納入している。



○プラスチック製医療機器・医療用品

近代医療を支える血液浄化用血液回路、血漿交



換用血液回路、臨床検査用回路などの製品の設計から原材料の加工組立、滅菌、包装に至るまで一貫生産し、安全性の高い製品を提供している。

研究開発を重視し新製品の開発

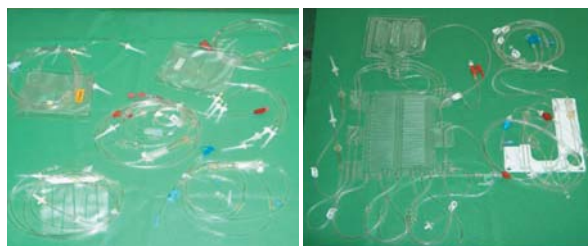
同社取扱いの医薬・医療機器関連製品は、医薬品と同様に、製品認可のハードルは極めて高く、「研究開発による新製品の開発」は必至である。

大島社長は、「医療関連製品は、ボリュームが大きくなりすぎると、大企業が参入してきます。当社では、保険適用が期待される分野に絞って、新製品の開発に積極的に取り組んでいます。そうすることが、社員の技術向上にもつながっています」と語っている。

「新連携事業計画（経済産業省）」の認定

中小企業の異分野連携による新事業を支援するため、中小企業新事業活動促進法に基づく「新連携計画」について、同社をコア企業とした「カートリッジ式プラスチック製血液浄化用血液回路の開発と製造販売」事業が、平成20年7月10日付で認定された。（厚生労働省との共同認定）

新製品は、従来の多接点接合方式のチューブ状回路に代わる、装着位置と相似形のパネル化したカートリッジ式のもので、装着時間の短縮、血液漏れ・目詰まりの防止・流量の安定化等医療過誤リスクの低減を可能にする。開発から実用化に5年を要し、今年4月から販売開始予定で、今後の需要拡大が大いに期待できる。（鶴山、島田）



現行の血液回路

カートリッジ式プラスチック製血液浄化用血液回路